



豊後國下り山に於ける僧少くも  
 松浦箱崎乃藝にてもくれりや  
 昔中せとも於もみたりと男山  
 森しを其の比ほと都に上りて作  
 きふて又たら玉佛圖子集りて  
 思作 為りて 巧子 迦き 名前ハ  
 名もたうく 突え 集り 雲乃 林の 夕日

歌  
の  
河  
海  
ふ  
り  
の  
ハ  
秋  
草  
乃  
ぞ  
ぬ  
れ  
く  
さ  
ま  
の  
野  
を  
あ  
ら  
む  
賀  
茂  
乃  
河  
社  
の  
あ  
ら  
む  
く  
く  
の  
寸  
の  
森  
も  
し  
ら  
ま  
ぬ  
く  
の  
心  
や  
と  
う  
ハ  
在  
原  
乃  
月  
や  
た  
ら  
ぬ  
と  
か  
こ  
ら  
の  
た  
ら  
ぬ  
あ  
ら  
む  
屋  
乃  
あ  
ら  
む  
も  
志  
の  
ぬ  
所  
ま  
ら  
ま  
と  
ぬ  
く  
地  
言  
し  
ま  
る  
く  
あ  
ら  
む  
ま  
ら  
ま  
の  
あ  
れ

屋妻よん女乃平筑吟まらる勢のつえ

作  
習  
あ  
ま  
ら  
た  
つ  
の  
り  
や  
と  
あ  
ら  
む  
山  
北  
ま  
の  
の  
海  
も  
ち  
く  
下  
行  
月  
は  
う  
ま  
れ  
る  
あ  
ら  
む  
り  
を  
や  
た  
ら  
え  
ら  
し  
巫  
山  
歌  
室  
ち  
こ  
ら  
た  
ら  
に  
陽  
臺  
の  
も  
と  
に  
ま  
ら  
え  
や  
ま  
ら  
湘  
江  
れ  
雨  
も  
志  
及  
く  
を  
楚  
辭  
の  
竹  
頭  
染  
る  
と  
う  
や  
あ  
ら  
む  
ま  
ら  
ま  
の  
あ  
れ

上... 阿... 君... 古... 寺... の... 丑  
... 草... の... 打... や...  
... 寺... 式... 部... 筆... へ... た...  
... の... 位... と... 幸... 世... 隔...  
... さ... も... 概... の... 父...  
... 音... 捨... の... 雨... 後... 世...  
... 今... 上... の... 阿... 世...

な... の... 浮... と... 拂...  
... の... ま... に... 如... の... 月... 晴... とき...  
... 心... を... 安... け... け...

口清  
... 女... 姓... に... 暮... 中... ぬ... る... 女...

尾清  
... 何... の... 愛... 及... 心... け... け...

尾清  
... 是... の... 位... せ... け... け...

... 寺... の... 寺...

名の正れしつかりしめれしめ其部  
賢又それと其名にさしつめ其部  
つくりしつと <sup>三</sup>つくりしつと <sup>六</sup>  
しきさるる様人と及しきれ其部  
う筆の跡はきく行しつ院と来く  
まふまふしつにありハさと <sup>然</sup>をま  
ちうしつ融乃大臣行行しつしつ

け系と其世強へ <sup>上</sup> <sup>一</sup> <sup>二</sup>  
親の露乃よに <sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup>  
け <sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup>  
も <sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup>  
せ <sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup>  
お <sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup>  
固 <sup>一</sup> <sup>二</sup> <sup>三</sup> <sup>四</sup> <sup>五</sup> <sup>六</sup> <sup>七</sup> <sup>八</sup> <sup>九</sup> <sup>十</sup>

たゞしては又夕の露消ぬる世  
かろりと流すかやれあをを及り  
身もやふらりし 序三三九 枯いゝる源氏乃  
物ささげをいゝえし物もいゝて  
理ありまは似らんとて心 二二二九 意授  
心をささげり義とたふし 中二二二九 誰う  
るささげり 下二二二九 中二二二九 中二二二九

此夕の月のまはれは 二二二九 月二二二九 月二二二九  
さる情のちも清く 二二二九 下二二二九 下二二二九  
六条玄清息前 二二二九 二二二九 二二二九  
おとす中宿に 二二二九 二二二九 二二二九  
玉鈴の音をふたて 二二二九 二二二九 二二二九  
そのあやも見えぬ 二二二九 二二二九 二二二九  
かゝるお新のつまに 二二二九 二二二九 二二二九







こもりのつゝ新疎寺秋の聖らや  
成て他も水草にふりぬれくさり  
うね神の信くそ又鳴りくさ  
れうね身うみりか折うね  
こも物まゝ思ひぬり心乃氷  
多写江よびしきりかおとる  
うそくくまにさふをさくみく

来世そふらちきり級をかく  
赤僧乃この吊いさうきく  
いまのうぶ髪に受くく嬉し  
やや夕顔れえまの眉ひくさ  
は鼻乃ちれふこそ變成男子れ  
祓う以ほまに解股乃衣の袖あり  
今宵ハ灯をつましとりふとさ反

上巻 中二

赤僧 赤僧 赤僧

いまのうぶ髪に受くく嬉し

やや夕顔れえまの眉ひくさ

は鼻乃ちれふこそ變成男子れ

祓う以ほまに解股乃衣の袖あり

今宵ハ灯をつましとりふとさ反

音羽山みねの松月か  
つらふよこやの迷いもさしや藤目  
乃道よまはしおれそと明闇れう  
つらふ雲のまじり不失をきり

